

目 次

第一章 先土器時代	三
第一節 伊那の河岸段丘	四
一 洪積世と後氷期	四
二 河岸段丘とローム層	五
第二節 錐い石器と狩猟生活	八
一 ローム層の中の石器	八
二 先土器時代人の生活	三

第一編 原 始

見返し 表 木曾助郷絵図（伊那側）  
同 裏 伊那市史歴史編（題字 伊那市長）  
屏 伊那市史刊行會長 三澤功博  
伊那市教育委員会事務局長 伊澤一雄  
伊那市史編纂委員長 赤羽篤

序

発刊のことば

刊行にあたつて

例 言

第三節 先土器時代の主要な遺跡

第二章 繩文時代	四
第一節 自然と人々の生活	四
一 沖積世の自然	元
二 狩猟・漁撈・採集の生活	元
第二節 塗壁住居の発展	三

第二節	集落の移り変わり	八九
一	山麓の集落と段丘の集落	四
二	集落の変化と発展	四
第三節	土器文化の発展	四
一	縄文土器の発生	四
二	縄文土器の意義	四
三	縄文土器の変遷	四
第四節	祭りと葬い	四
一	原始宗教と縄文時代	四
二	遺構と遺物	四
第五章	縄文時代の主要な遺跡	三八
第一章	弥生時代	三八
第一節	水稻農耕の発展	三八
一	弥生文化の伝播と展開	三五
二	稻作と農具	三五
三	住居と集落	三五
第二節	弥生土器	三五
第三節	墓の營み	三五
第四節	弥生時代の主要な遺跡	三五

第二編 古代

第一章 古墳時代	三一	三一 鉄器と馬の文化	三一
第一節 古墳時代の概観	二一	第四節 伊那部の成り立ち	二五
第二節 伊那市の古墳	二三	一 大和朝廷と伊那の関係	二五
一 古墳分布の概略	二三	二 伊那部氏	三四
二 墳丘	二三	三 伊那評(郡)について	三三
三 伊那市地域古墳一覧表	二九	第五節 主要な古墳及び古墳時代の集落址	三四
第三節 古墳時代の人々の生活	三二		
一 穴居と集落	三二		
二 土師器と須恵器の変化	三七		
第二章 古代国家への参加	三九		
第一節 大化の革新と地方の政治	三九		

第二節 伊那郡(評)の政治と生活	三	旅のようす	四八	
一 国と郡(評)	二	駅制の衰え	四九	
二 国司・郡司の仕事	三	馬	五〇	
三 諏方国の誕生と廃国	四	笠原御牧	五二	
四 伊那郡(伊奈評)の境域と郡家	五	駒	五六	
五 伊那郡の郷	六	牽	五六	
六 村のようす	七 奈良・平安時代における伊那地方のくらし	七八	神道(神社)	五六
第三節 交 通	一 伊那の東山道	二 佛	五九	
一 伊那の東山道	二 駅 家	三 神教(寺院)	六〇	
二 駅 家	四 伊那市内遺跡分布図及び遺跡内訳一覧表	四一	四〇	
第三編 中 世	[付] 伊那市内遺跡分布図及び遺跡内訳一覧表	四二	四一	
第一章 鎌倉時代	三 幕府と諏訪神社	四三	四二	
第一節 源氏の台頭	一 所領とその変遷	四四	四三	
一 木曾義仲の挙兵と笠原平五頼直	二 所領の分布	四五	四四	
二 大田切郷之城の戦	三 春近領とその分布	四六	四五	
第二節 鎌倉幕府の地方支配	一 春近領の性格について	四七	四六	
一 小井豆郷の小井豆氏		四八	四七	
二 中沢郷の中沢氏		四九	四八	
第二章 南北朝時代		五〇	四九	
第一節 諏訪氏と北条氏		五一	五〇	

第二節 北条時行の動き	四九二	三 寺社政策	三三
一 中先代の乱	四五二		
二 大徳王寺城の戦	四九三	第三節 織田氏の侵入	三七
三 宗良親王	四九六	一 高遠城の戦	三七
二 保科氏等の動き	四九六	二 保科氏等の動き	西三
<b>第三章 室町時代</b>	五〇〇	<b>第五章 中世の社会と経済</b>	西七
第一節 信濃守護と国人衆	五〇〇	第一節 集落	西七
第二節 大塔合戦と春近人々	五一	一 集落の分布	西九
第三節 結城合戦と伊那諸族	五五	二 村落の生活	五〇
第四節 諸族の内乱	五七	第二節 城館跡	五二
一 小笠原氏の分裂	五七	一 城館跡一覧表	五二
二 諸坊上下社の争い	五〇	二 主なる城館跡	五〇
三 争乱の波	五二	三 伊那市城館跡分布図	五二
<b>第四章 戦国時代</b>	五五		
第一節 武田氏の侵入	五五		
一 諸坊から伊那へ	五五		
二 福与城の戦	五七		
三 地侍の動き	五七		
第二節 武田氏の統治	五六		
一 領内の支配	五六		
二 民治	五三		
第三節 中世の社会と経済	西七		
第四節 交通	五三		
一 南北の交通	五三		



三 幕府直轄時代	充一	第四章 貢 稟	充一
四 内藤氏時代	充一	第一節 概 説	充一
第二節 箕輪領	充三	一 貢組の種類	充一
一 西箕輪の村々	充三	二 貢租の割付	充一
二 福島村	充三	三 檢見取と定免	充一
三 下手良村(太田氏知行所)	充三	第二節 高遠藩の財政	充一
第三節 千村氏預り地(野口・中坪・八手三か村)	充三	一 高遠領の貢租	充一
第三章 檢 地	充一	二 高遠藩の財政	充一
第四節 寺社領	充一	第三節 箕輪領の貢租	充一
第一節 高遠領の検地	充一	一 正 稟(本途物成・本年貢)	充一
一 保科氏時代の検地(慶長検地)	充一	二 雜 稟(雜稅)	充一
二 鳥居氏時代の検地(明暦検地)	充一	三 貢租と農民	充一
三 真田氏による元禄検地	充一	第四節 千村領の貢租	充一
第二節 箕輪領の検地	充一	一 樺木成村	充一
一 延宝検地にみる耕地の状況	充一	二 「上五ヶ村」としての手良郷	充一
第三節 千村氏預り地の検地	充一	三 年貢納入の方法と貢租率	充一
第三章 宗門改め	充一		
第一節 伊那の邪宗門騒動	充一		
一 伊那地方のキリストン	充一		
二 中沢のキリストン騒動	充一		
三 その後の検地	充一		

三 常圓寺丹瑞和尚事件 .....	六六	第七章 産業経済 .....	八五
四 法華騒動 .....	九一	第一節 農業 .....	八五
第二節 宗門改帳 .....	九三	一 土地 .....	八五
一 宗門改帳の変遷 .....	九三	二 作人 .....	八五
二 初期幕領の宗門改帳 .....	九四	三 耕作 .....	八六
三 高遠藩の宗門人別改帳 .....	九五	四 水利と新田開発 .....	八五
四 石工稼の宗門改帳 .....	九〇	第二節 林業 .....	八五
五 欠落人と帳はずし .....	九〇	一 御林 .....	八五
第六章 村と生活 .....	八四	二 入会林野と山論 .....	八五
第一節 村の発達と制度 .....	八四	第三節 狩猟と漁撈 .....	八七
一 伊那市地域の村々 .....	八四	一 獣 .....	九七
二 村の機構と制度 .....	八〇	二 漁撈 .....	九九
三 村役人 .....	八六	第四節 鉱業と手工業 .....	九二
四 村の統制 .....	八三	一 鉱業 .....	九二
第二節 村の生活 .....	八六	二 手工業 .....	九三
一家族 .....	八三	第五節 商業と金融 .....	一〇九
二 奉公人と出稼ぎ .....	八三	一 商業 .....	一〇九
三 衣・食・住 .....	八三	二 金融 .....	一〇八
四 村入用 .....	八一		
第八章 交通 .....	一一一		
第一節 街道 .....	一一一		

一 伊那街道	一一五	二 伊那市地域に保存されていた通船文	一一四
二 春日街道	一一九	書から	一一九
三 権兵衛街道	一一三	三 渡 船	一一九
第二節 伊那部宿	一一四		
一 宿の成立と形態	一一五		
二 宿の機能	一一八		
第三節 助 郷	一一六		
一 助郷村の指定	一一七		
二 公用武家通行と助郷人馬勤めの実際	一一九		
三 助郷負担と減免の歎願	一二〇		
第四節 中 馬	一二一		
一 はじめに	一二二		
二 概 説	一二五		
三 自由を求めた中馬紛争	一二九		
四 宿場の既得権を守る闘い	一三三		
五 宝暦の紛争と明和の裁許	一三四		
六 明和裁許以後の紛争	一三五		
七 中馬の変遷・特質・利点(まとめ)	一三六		
第五節 通船と渡船	一三七		
一 天竜川の通船	一三八		
第九章 災害と騒動	一一九		
第一節 自然災害	一二一		
一 風水害	一二二		
二 干魃・雪・霜・雹害	一二三		
三 獣虫害	一二四		
四 地震	一二五		
五 川筋の移動	一二六		
第二節 因作と飢饉	一二七		
一 近世の飢饉	一二八		
二 享保の飢饉	一二九		
三 天明の飢饉	一二九		
四 天保の飢饉	一二九		
五 幕末及び明治初頭の大因作	一二九		
第三節 その他の災害(疫病)	一二九		
一 子供の死亡状況	一二九		
二 飢饉時の死亡者数	一二九		
三 幕末の疫病と死亡者数	一二九		



二 石造彫刻	三九二
三 建築に見られる彫刻	三九四
第四節 工芸	三九六
第五節 書道	三九七
一 井月と伯先	三九七
二 寺子屋師匠と書家	三九八
第十二章 幕末の諸情勢	三〇〇
第一節 激動の時代	三〇〇
一 ペリー来航と開国	三〇〇
第二節 幕末の特別通行	三〇三
一 貢勅使高松殿、賛官軍赤報隊の伊那	三〇三
通行	三〇三
二 伊那県と高遠藩をとりまく諸情勢	三〇三
第三節 明治の改革	三〇七
一 お札降り	三〇七
二 幕末の特別通行	三一〇
二 幕末の世情	三一〇
一 開港の影響	三一〇
二 尊攘の嵐と討幕	三一六

## 年表

- 『伊那市史歴史編』執筆者一覧  
 伊那市史刊行会役員  
 『伊那市史歴史編』編集委員  
 伊那市史刊行会事務局  
 あとがき

伊那市史編纂委員長 赤羽 篤